

2017 年度(平成 29 年)第 3 回幹事会 議事録

日 時 : 2017 年 12 月 8 日 (金) 13 時~15 時

会 場 : 大阪科学技術センター 7 階 700 号室

出席者 : 54名

○前回幹事会議事録承認の件

辻支部長から第 2 回幹事会議事録 (資料 No. 1) について説明され、異論なく承認された。

1. 本部関係報告

(1) 本部理事会報告

辻支部長 (本部理事) より第 4 回理事会 (No. 2) について以下の報告があった。

【本部運営】

- ・上半期決算状況は、昨年度より減収、減益ではあるが、大きな問題はなく順調に推移している。
- ・2018~2019 年度代議員推薦者数について (近畿支部から 19 名を候補者として推薦した)
- ・定款改定案について (代議員が欠けた場合の補欠選挙について)

【学術業務】

- ・第 77 回分析化学討論会の会計報告を行い、剰余金の支部配分を含めて、了承された。剰余金の 1/3 に相当する 1,234,572 円が今年度中に本部から支部会計に振り込まれる予定である。国際文献社に 200 万以上の討論会委託費が支払われたが、これについては、今後精査してもらうように、依頼した。
- ・2018 年以降の討論会、年会について<近畿支部は 2021 年に第 70 年会を担当>

【表彰業務】

- ・CERI 賞に関して廃止の動きがあったが、2018 年度については実施予定

【その他】

- ・会員現況について : 会員数は 6,000 人を下回る状況となっており、減少傾向が続いていることが方向された。

(2) 「ぶんせき」編集委員会報告

編集委員の田中氏から資料 No. 3 に基づいて、2017 年 7 月以降の近畿支部担当分の原稿の執筆者について報告があった。2018 年 5 月末締切の「トピックスに」については未決定のため、自薦他薦を受け付けている。

(3) 「Analytical Sciences」編集委員会報告

編集委員の白井氏から資料 No. 4 に基づいて、編集委員会報告が行われ、最近の Anal. Sci. 誌への投稿状況とゲストエディターの起用に関する報告があった。また、Highlights 原稿の執筆予定についても紹介があり、インパクトファクターの改善につながることを期待される。

(4) 「分析化学」編集委員会報告

編集委員の北隅氏から資料 No. 5 に基づいて、編集委員会報告が行われ、2018 年の年間特集が「膜」

であり、テーマの説明と投稿の呼びかけが行われた。また、これまでは審査情報の流出を避けるために編集委員と著者の間を常に事務局が介していたが、これを変更し、編集委員が著者に直接審査結果を送付するように変更されたことが報告された。

2. 2017 年度 支部事業中間報告

床波庶務幹事から資料No. 6に基づいて、2017年度、特に7月の幹事会以降に開催された支部事業（常任幹事会・幹事会、ぶんせき講習会、平成夏季セミナー、役員選考委員会）について報告があった。以下、各WG責任者より事業報告があり、事業中間報告全体が異議なく承認された。

(1) ぶんせき講習会

久保埜委員長から資料 No. 7に基づいて、11月開催の発展編に関する報告に続き、今年度で開催された全ての講習会の実施報告と収支報告が行われた。また、講習会の申し込みについて、電子メール申込からHP申込へ移行し、自動返信システムを導入することが報告された（費用は7万円程）。

川崎次期委員長から資料 No. 8に基づいて、2018年度のぶんせき講習会の実施計画と体制について説明があった。また、「ぶんせき講習会受講証明証」は原則発行せず、問い合わせがあった場合のみ対応することとした（次年度から試験的に導入）。また、特に「ぶんせき講習会 基礎編その1」については、「ぶんせき」誌での会告を1か月早める計画であることが報告された。

(2) 支部講演会 WG

責任者の矢嶋氏から資料 No. 9に基づいて、第3回支部講演会（2017年12月8日）の講師と演題について、また次年度開催予定の第1回支部講演会（2018年4月13日）の概要が紹介された。

(3) 提案公募・セミナーWG

責任者の高山氏から資料 No. 10に基づいて、2017年度第2回近畿支部提案公募セミナーの開催報告があった。

(4) ホームページ&分近ニュース WG

辻支部長（責任者の宇田氏の代理）から資料 No. 11に基づいて、ぶんきんニュース第41号の発刊と今後の発刊予定（第42号：2018年2月）について説明があった。

(5) 平成夏季セミナー関係

責任者の岩月氏から資料 No. 12に基づいて、ぶんせき秘帖巻ノ十一の開催報告と収支報告が行われた。今回収支が大きく赤字となったのは、台風によるキャンセルで返金があったことによる。

次年度の責任者の西氏から資料 No. 13に基づいて、ぶんせき秘帖巻ノ十二の開催計画について説明があった。中部支部との合同で、2018年8月に福井市での開催を予定している。今後、運営、会計について、どのように2支部で分担していくか、議論していくことになった。

3. 2017 年度 近畿分析技術研究奨励賞受賞者

辻支部長より、常任幹事会で承認された本年度の近畿分析技術研究奨励賞の選考結果が発表され、2名の受賞者<石垣美歌氏（関西学院大学）、高原晃里氏（株式会社リガク）>と受賞題目が報告された。

4. 2017 年度 支部会計中間報告

会計幹事の鈴江氏から資料No. 14に基づいて、2017年度の会計中間報告が行われ、異議なく承認された。流動資産合計の過剰分については、国際学会渡航支援事業の再開なども含めて検討を行うこととした。

5. 2018 年度 支部役員候補者

辻支部長より資料No. 15に基づいて、2018年度の支部役員案およびWG・委員会等役員業務案が報告され、異議なく承認された。

6. 2018 年度 支部事業計画案

中原庶務幹事より資料No. 16に基づいて、2018年度の事業計画が示され、異議なく承認された。2018年の支部事業においては、11月に近畿支部65周年記念事業が予定されている。

7. 2018 年度 支部予算案

掘田会計幹事から資料No. 17に基づいて、2018年度の予算案が示され、異議なく承認された。第77回分析化学討論会での剰余金が近畿支部に123万円分配される。近畿支部65周年記念事業については、65万円の支出が予定されている。

8. その他

(1) 合同事務局運営委員会の件

辻支部長から資料 No. 18 に基づいて、8月に行われた合同事務局運営委員会について報告があった。H30年度の学協会経費分担比率（人件費、事務所費）は平成26年度の取り決めが継続されることが確認されたが、日本分析化学会は負担金比率に対して事務局の労働比率が高いため、今後は事務局の負担を減らしていきたいとの考えを示された。H29年度の分担金と比べると、H30年度は111,233円の減額となり、1,302,618円となる。

(2) 代議員候補者推薦の件

辻支部長から第2回役員選考委員会において代議員候補者19名が決定され、本部事務局に報告した旨の説明があった。

(3) 近畿支部65周年記念事業の件

辻支部長から資料No. 19に基づいて、近畿支部65周年記念事業計画に関する説明があった。2018年11月に大阪市立大学杉本キャンパスにおいて、前田実行委員長のもとで行われる予定である。

(4) 講師謝礼改訂の件

辻支部長から資料No. 20に基づいて、講師謝礼改訂に関する説明があった。高度な専門知識の講習を伴う実習担当者には、1時間未満で5千円、1時間を超える場合は1万円を支払うことにする。

(5) 2018 年度 学会賞等各賞候補者推薦の件

辻支部長から 11 月に行われた学会賞等推薦委員会において候補者が決定したことが報告された。また、CERI 賞について追加推薦が呼びかけられた。

(6) 共催、協賛など

辻支部長より資料 No. 21 に基づいて説明があり、全ての協賛が承認された。

以 上